

陸軍航空士官学校校歌

久保田 八雄（五十一年期）
陸軍戸山学校軍楽隊

作詞
作曲

一 玲瓏富士の嶺高く
れいろう

人間の流れ水清し

ここ武蔵野の原頭に

菊花の御章巖として
しるし

輝く下に集いたる

われら健児の意気昂し
たか

二 見よ八州に赫やける
かが

六十年の伝統を

遷してここに益良男が
うつ

濁り染まず朝な夕

大空かけり地を守り

心と技を鍛えなむ

三 ああ永遠にけがれなき
とこしえ

皇国の空を守らんと
みくに

澁刺進取の意気に燃え

力を合わせて進むとき

空の守りや地のつとめ

渾然として弥鞏し
いやかた

四 血をもて建てし先人の

動かぬ基礎受けつぎて
もと

彼蒼に高く輝ける
ひそう

理想無敵の天つ城

築かん吾らが大使命

目指して共に進まばや

五 建武の勲 弥薫り
いさおいやかお

玉歩の跡も度繁く
たびしげ

賜名は畏こ修武台
しめい

ああこの栄に咽ぶとき
はえ

五条の勅諭一筋に
おしえ

君が御楯と捧げなむ

六 八紘の空風荒れて
はっこう

妖雲天業阻むとき
はぼ

攘いて進む皇軍の
はら

先鋒となりて諸共に
さきて

大地を蹴って空高く

鵬翼張りていざ往かん